

# 複式(算数)授業づくり講座 in 安芸市立赤野小学校

授業をアップデート!  
生きて働く学びを創る!

令和4年8月発行  
東部教育事務所

東部管内の講座情報



## 第3学年「あまりのあるわり算」 第4学年「わり算の筆算(1)」

### 教材研究会 (5月19日)

#### 児童の実態と授業づくりの課題

- ・学力調査の結果から「A数と計算」の正答率が高いが、数量の関係を捉えた演算決定や式や求めた答えの意味的理解に課題があり、日常生活に生かすことができていない。
- ・授業では、授業練り合いや伝え合いの場の設定が不十分で子供の考えに内在する価値を引き出せていない。

#### 授業づくりの工夫

- ◇式の意味や自らの考えを相手に説明する必然性が生まれる課題づくり
- ◇数学的活動の各場面で言語活動を充実

#### 単元ゴールの姿

- 【第3学年】  
除法にはわり切れない場合があり、その場合には余りを出すことを理解し、確実に計算できる。また、余りの大きさや計算の確かめの仕方、余りの意味について考え、日常生活に除法を用いようとする姿。
- 【第4学年】  
多数桁の除法が基本的な計算を基にしてできることを理解し、桁数の多い計算の仕方を発展的に考え、それを生活や学習に用いようとする姿。

### 教材研究会を受けての単元計画の変更点

- 半具体物や図を使い、自分の考えを表現・説明していく活動等を毎時間設定する。
- 【第3学年】  
アレイ図で問題場面や式、計算の仕方を表現する。
- 【第4学年】  
・計算の技能を確実に身に付けるために、毎時間児童の達成状況を把握していく。  
・10や100などの束カードを操作しながら計算の仕方を説明する活動の場面を設定する。
- 【第4学年】  
本時の「思考・判断・表現」の評価規準である「十分満足できる(A)」 「おおむね満足できる(B)」それぞれの記述例を具体的に作成し、児童の到達状況を評価し、単元ゴールの姿に迫ることができたか確認・検証する。

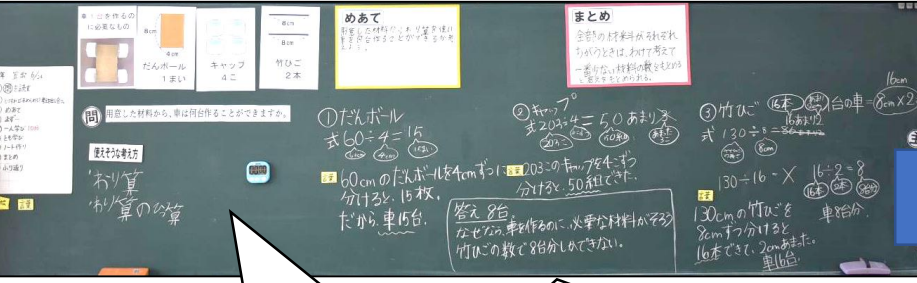
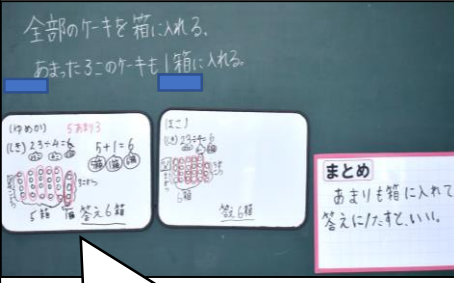
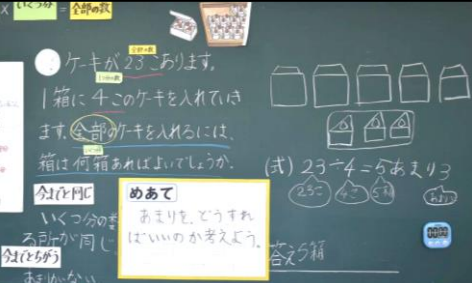
### 授業研究会 6月24日

### 第3学年

### 第4学年

6/8 目標：商や余りの意味に着目して、問題に応じた商の処理の仕方を考え、余りの捉え方について理解を深めることができる。

10/12 目標：学習内容を適用して問題を解決することができる。



**問題場面の把握と演算決定**  
分かっていることや聞かれていることを把握するため、線を引いたり数や言葉の意味を捉え、演算決定につなげる。

**得られた結果の吟味**  
アレイ図に表しながら、 $23 \div 4 = 5$ あまり3の結果を得る。あまりに着目させ、問題場面に返って5箱か6箱なのかを考える時間を設定する。

**問題場面の把握と演算決定**  
複数の情報(用意した材料)を整理し、車は何台作ることができるのか見通しを立てる中で演算決定を行う。

**得られた結果の吟味**  
筆算で得られた結果をもとに、問題場面に戻り、「材料が全部そろっているものしか作れないから8台」と、商の意味を捉える。

### 協議の視点 「形式的理解ではなく意味的理解へつながら授業展開になっていたか」

- ・半具体物や図を使ったことは意味的理解を図るために効果があった。
- ・余ったケーキを箱に入れないといけない。だから箱を一つ足さないといけないことの理解が難しかった。ケーキ屋のイメージを引き出すなどの手立ても必要だった。(2つの余りの扱いまで到達したかった。)等

- ・答えて終わらず、なぜなら～とつなげていた。
- ・3つ全部を1人で考えるより、子供からの「担当を分けては？」という意見を拾い、それを持ち寄って話し合いをさせると時間も短縮され、みんなで練り上げができたのではないかな。等

### 指導のポイント

立式のための話し合いだけでなく、どんな場面なのかの確認を行うことが必要です。そのために、前時との違いや、実体験をもとにした話し合いをすることが効果的です。

導入で1人1人が見通しを立てることにより、粘り強く問題に取り組むことが期待できます。また、条件にあった答えにするために目的(問題)に戻り、結果の吟味(確かめ)を行うことが大切です。

### 複式の強みを生かした授業づくりへの期待

- 個に応じた指導の充実  
必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行ったり、一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会を提供したりする。
- 自立的、協働的な学びの促進  
間接指導前に、解決の見通しをもたせる手立てを行うことにより、評価を行う時間の確保につながる。また、自分の考えを伝えるチャンスが何度もあるので、インプットしたことを繰り返しアウトプットしていくことにより、確かな学びにつながる。
- 同一教材や「学びの共有の時間」の設定  
下学年は先を見通し、上学年は学び直しの機会にする。  
学習指導要領が目指す主体的・対話的で深い学びの実現へ

### 参加者からの声と 授業者の振り返り

- ・発問や切り返し、式、図、言葉、半具体物を関連させながら説明させるなど、意味的理解につなげる工夫や手立てについて取り入れたい。
- ・評価規準の具体的な設定について参考になった。
- ・一方の学年に関わっているときの、他方の学年の子供たちの見取りをどうすればよいか再考したい。
- ・児童の意味的理解の大切さを再認識した授業だった。式を言葉で表すこと(言葉と式の関係付け)を自分の授業でも大切にしながら、児童理解につなげたい。

### 授業者 樋口桃子教諭



4年生は、自力解決の時間確保が十分設定できなかった。どの時間を短縮するのか、どこで子供の力を見取るのか等を考えていきたいです。  
3年生は、生活場面で考えさせる声掛けをしていれば2つの問題を比べる活動まで進めたと思います。本日学んだことを今後改善していきたいです。



次回 第2回授業研究会 10月6日  
第1学年「かたちあそび」 第2学年「長方形と正方形」

授業をアップデート!  
生きて働く学びを創る!